

脳神経外科に特化して10年、 診断、手術、治療が画期的に変化

—— 開院10周年を迎えられましたね。どんな10年でしたか。

大西 2010年12月で10周年を迎えましたが、当院は脳神経外科の専門病院として、脳腫瘍、脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血などの脳卒中、頭部外傷や脊椎・脊髄損傷あるいはアルツハイマー病や脳血管性痴呆症、パーキンソン病などの治療を最新の設備と最高のスタッフにより最善の医療を行ってきました。最初の3年は、病院機能評価の認定に向けて、不眠不休とも言える努力を重ねました。その結果2005年

に無事認定を受けることができました。その後は電子カルテの整備のために試行錯誤の年月でした。これも今では10年のデータが全て電子化されています。

—— 患者さんほどの辺りから来られるのですか。

大西 意外とこの東播磨地域の人口は多いのです。神戸市西区からも明石へ下りてこられますから、100万人近くになります。垂水区にも脳外科はあまり多くないので、需要がありました。当初は神戸と姫路の谷間でもっと



医療法人社団英明会
大西脳神経外科病院(明石市)

理事長・院長 大西 英之

細々とするつもりだったので、かなりの患者さんが来られています。しかしドクターとナースは常に不足しています。若いマンパワーが常に必要だと考えているのですが、なかなか大変です。学術論文などの努力も必要です。日本には脳卒中内科が殆どなくて、脳外科医が両方診ている現状です。余計に大変です。医師の養成も大切です。医師がローテーションで動いていくのもやむを得ないことです。当院は症例が多いので、実地で腕を磨くこともできますから、どんどんいろんな方に来ていただきたいと思

います。1ミリの血管を10〜12針で縫う練習をする顕微鏡を備え、テクニクの習得をさせていきます。一般的なカテテル検査など基本的な研修もさせています。さらに、そういった技術も大事ですが、考え方、判断力がしっかりしていないといけません。

—— 医療とはどういうものだとお考えになりますか。

大西 サイエンス、アート、ヒューマンティの3つです。当院のマークは脳の形で、その3つを表しています。アートとは私たちの手術の

技術をアートと言われるまでに頑張つて勉強して、アートの域に到達しようという努力目標です。

—— 増築のご予定もおありそうですね。

大西 今の倍の面積の新病棟を考えています。全体で今の3倍になる予定です。現状は82床で、今回増床できるのは40床ですが、将来のことも考えて1フロア多く取つてあります。今回は10年ぶりの病床の見直しがあったので、取れた病床です。当院からリハビリ病院に移るまでの間の病室の必

要性を痛感しておりましたので、2013年の4月にオープンします。これからは特色のない病院は経営が難しく、老健施設に転換する病院も多くなるでしょう。当院では今後も脳卒中や成人病

の予防に対する知識の普及、脳ドックを中心とした検診システム、半身不随や言語障害に苦しんでいる人々のリハビリテーションや社会復帰への援助、痴呆性老人や寝たきり老人の介護などフィランソロピーの精神に則った活動を通じて人々の健康と社会福祉に貢献したいと考えております。



シンボルマークは脳の左半球をデザインしたもので、病院の理念である科学・技術・人間愛を意味している。